

京城日報

刊夕日九十

日本行金塊送禁止

日本行金塊四萬萬弗は突然米國政府により輸送を禁止せられた(米電)

出兵と日支交渉

支那に出兵し、段總理は非公式に日本と交渉を果す(米電)

獨逸祖國黨強硬

獨逸祖國黨は米國に對し強硬な態度を表明し、米國の獨逸領内に於ける權利を保護するに必要と主張する

植民地恢復は必然

獨逸の講和條件は、植民地を恢復せしむることを要求する

露國民主黨政府設置

露國民立憲民主黨政府は、設置せられた(電報)

哥薩克指揮官辭職

露國半官報の報ずる所に、哥薩克指揮官カレーチン將軍は其職を辭せりと路電

飛行機擊破公報

英國政府は獨逸政府の公報せる八月の飛行機擊破の如し、獨逸公報八月の飛行機被破を擊破され敵飛行機二百九十五機(内百二十六機は獨逸領内に墜落)

獨逸の回答案

近々内容發表 獨逸政府は米國の對獨逸の要求に對し、回答案を發表する

排日問題交渉

獨逸政府は排日問題に對し、交渉を開始する

重砲編成

獨逸政府は重砲部隊を編成する

正貨十億

獨逸政府は正貨十億を發行する

京阪電鐵社長

京阪電鐵社長は獨逸領内に於ける權利を保護する

齒科醫則改正

獨逸政府は齒科醫則を改正する

害蟲發生頻繁

獨逸領内に於ける害蟲の發生は頻繁である

本年米收奈何

獨逸政府は本年の米收を調査する

朝鮮製粉會社許可

朝鮮製粉會社は許可される

古谷代議士元山行

古谷代議士は元山に旅行する

栗作豫想

栗作は豫想する

東拓社債應募

東拓社債は應募される

東拓支店長

東拓支店長は吉田節太郎

鮮銀幹部異動

鮮銀幹部は異動する

藥劑技術官會議

藥劑技術官會議は開催される

參謀長の記

參謀長の記は發表される

鎮南浦

鎮南浦は鎮守される

一寸永興

一寸永興は永興する

彼れ

彼れは彼れである

此れ

此れは此れである

第三十二席

浪桃川如燕口
上義三郎速記
演

A black and white illustration of two men in traditional Japanese attire. One man is kneeling on the left, facing right, wearing a striped kimono and a headband. The other man is seated on the right, wearing a patterned kimono and a headband, looking towards the first man. They are in a room with a tatami floor and a dark background.

野、それから、訃告の宮本町に亂心の
 第三郎といふ者、亂心と云つても氣
 狂いではございません、仕事にかゝ
 ると熱心になつてしまひ他人と呼ば
 れても返事もしない、何だか自分の
 勝手な仕事で氣中になつてしまふ
 の云ふことなどは耳にも入れない
 兎もかくは氣正にといふので人々噂
 で宮本町の亂心甚重三郎と云ふ、そ
 より體所を探れたが何うしても三人
 しか無い、海難騒ぎで困る一人なら
 四方へ取付けけるのを二ヶ所所隠れ
 るといふことがあるが、三人では隠
 れなかつてしまつて仕方が無い、作
 平奉行・青山通江寺も途方にくら
 した。

九月廿一日九星
 酉八月六日四寅
 本命四條御取先 読

△四條 急にになり、願者は新に北へけ
 られて、あつた見ずの事有、其意重
 手無き事は、妨むと△六日、平海の日な
 く、新海津の方、其意重なるを、
 △七日、子時、有日遊事、其意重なるを、
 せららし△八日、是、其意重なるを、
 其事は吉也、争ふ、其意重なるべし△九日、神科の

梅配に建前を済せましは 取然うた
とな、梅なのお影で助かつた、
先刻藤藏が歸つて來ての話しだが、
あの跡は何うするつもりだ 甚困つ
てしまふな世役者が歸つて來て梅染
に頼しをしたんな仕方が無い 俺の
考へては梅染に知らせねばで密に引
替へてしまふよと思つて居たんだ 實
はねお聞きなすつたか知らねが藤
染の穴が五寸詰てしまつた 取然う
だんな其故藤藏も甚五郎さんが今日
行つてくれなきやア命を捨てても退き
かねば 甚五郎さんのお蔭で拾ひ得
をしたから是から自宅へ歸つて大神
宮様に御神酒でも上げお禮を申上げ
なきやアならねばと周章に歸つて行
つたが、あれは何ういふことなれる
甚驚うてござんす、他の者は兎も
角も藤染にだけは仕舞へませう 兎も
然しながら此の廣染も藤染様か度も
覺て居りますから只今では寢つ

藥に彫つた奴を甚五郎が二重若葉
直して十六工式つたといふものを
三日半で作へ上げてしまいました
大した腕世のもの、其の後梅染
世酷役と小僧を二人ばかり手帳は
て人知れず此の廣染を引替へてし
もの、何でも名前といふものは密
も、甚五郎が仕事にかつたので
云ふ處から一ツ目の排天様のお堂
甚五郎が建た、甚五郎が繪圖を引
たと評判をいしたのですが、何
も此五郎が繪圖を引いた譯でもな
建た譯でもない、只廣染ばかり
京都府南河内郡二ツ三ツ元寶堂

皮柳病 須古醫

電話二〇二

[illegible]

は人む悩

名古屋市東區京町三丁目

本舖 同屋荒川長太郎

電話 千七百七十五
大塚 三九六

[illegible]

と道^{ミチ}の血^{ケツ}病^{ビョウ}宮^{ミヤ}子^シ

彼^カれ^レ是^ニと迷^{マヨ}無^ク

最^{モト}も道^{ミチ}効^{キウ}良^{リョウ}藥^{ヤク}純^{ジュン}血^{ケツ}得^{トク}を試^シ上^{ジョウ}現^{ゲン}に百^{ヒャク}方^{ハウ}手^テを過^スも効^{キウ}なき難^{ナン}症^{シヨウ}の血^{ケツ}の道^{ミチ}や、多^タ年^{ネン}不^フ治^チの血^{ケツ}のヒス^{ヒス}テリ^{テリ}や、數^{スウ}年^{ネン}難^{ナン}治^チの子^シ痛^{ツウ}を始^{ハジ}め固^コ疾^{シツ}の氣^キ氣^キリウ^{リウ}マ^マチス^{チス}前^{ゼン}補^ポの方^{ハウ}々^々映^{エイ}紅^{コウ}の速^{ソク}服^{ボク}で漸^{シユ}快^{カイ}方^{ハウ}に赴^シき遂^{スエ}にハスツカ^{ツカ}リ快^{カイ}癒^ユし癒^ユさの輪^{リン}り思^シひな驚^{キョウ}快^{カイ}現^{ゲン}在^{ザイ}保^ホ存^ソ一^{イチ}般^{パン}の問^{モン}究^{キウ}に於^オす^スを述^{シュツ}ぶ

實^{ジツ}例^{レイ}も勝^{カチ}からず若^{ニハ}不幸^{フコウ}にも是^{コノ}等^{トウ}の病^{ビョウ}に罹^カス

お化粧の順序

（第三に）
（第四に）
（第五に）

を顔から顔へかけて塗る。若し荒れ作の方ならば、一番よくアレ止め薬用の美身粉ウツヲ
が身クリームを代りに用ひ、能く擦り込んでから蒸タオルで拭き取る。
一番高貴で美しい顔の出るウツヲ白粉を掌に取り、指先で能く塗つて附け、（縁は顔より少し
過く）、牡丹眉毛で白粉を延ばし、水刷毛で均らし、蒸タオルで抑へて白粉を落付かせる。
お顔にホノリ櫻色の健康色を與ふるウツヲ頬紅を目の下から頬へかけて薄く刷きつける。
お化粧を留立てるウツヲ粉白粉をセーム皮につけて顔に薄く打ち、（縁はポットに粉白粉を含
ませて刷いた上をセーム皮で軽く打ちます）、高貴で美しい淑女式のお化粧が出来上ります。

洗粉
セリシ
白粉
牡丹
小は
頬紅
粉白
美人

正式

お化粧の仕方

東京でも、大阪でも、良家の奥様やお嬢様のお化粧といへば、大抵次の方法にきまつて居ります。即ち先づ……

(第一に) 皮膚の美を養ふ……お化粧下

月やく券三銭封入左記に郵照
 會あれ妙藥知らす
 京成黄金町三丁目 月田シダケ

本藥店は國力擴大にして妙の藥
 作用を速くし性質を溫和し及び全
 國に於ける日米兩國の衛生に全
 分一海毒特製金丸金丸金丸
 痲病特製金丸金丸金丸
 京都永樂町二丁目交番北
 京町ドラッグ商會本館

ばいりん病
毒

総代理
 フラック
 ラバー
 ベルト
 ト

羽田式
 貼
 ゴム
 ベルト
 ト

目下一通北都區西市販大
 店支阪大所造製帶調出羽
 番四七六番三七六國塚佐士話電
 番八八八九九二阪大替振
 外門大南城京
 店支城京行洋神白
 (一シ略) 電七九一五二國話電
 番七二九城京替振

代理店

なるもの記念の爲め學校内に据ゑ直してある。像は實體の三分の一大、脚下の臺はセツション式の四尺に餘るものである。中村技手は舊工部大學の附屬に居て伊太利人



紫根シシナムの研究。
研究時代から實用時代へ。

紫根とシンナムの研究
研究時代から實用時代へ

左の手に握るに充め、右の手で「グリップ」を握り、グリップと握る博士の姿を略略として、わが意氣、業々門外生に、半ば製鐵工場の原動力となつて居る。既に原動力となつてゐるものもある。此所には機械科の教授、工學士上山善助氏の姿を思ひ見る。彼等は既に幾半半の知識を、一種の卒業生を出し、只下級生が八人、内幹人半分の割合で得た生徒は廿名居る。

シンカムは楓樹の一種で以前から國
境平北地方では

シシナムは楸樹の一種で以前から園境平北地方では

▼**支那人の染料**として輸出せられてあつた、俗に支那人のは順る幼稚な方法であつて目下われ／＼の研究したやうなものは知らぬやうであるが兎に角むかしから植物性

開闢から見れば寧ろ

▼**エキス分**は十月

多いのであるから其の頃の葉を採るのが最もよい、従来平北から出た十萬斤のシシナムは多く樹を伐うな無法な人があつたやうだがは是非共成分の充實した落葉す

び炸薬に對しては主として黑色に染
り紋付染めなどのひきだめには最も
適した。

び作題に對しては主として黒色に染り紋付染めなどのひきぞめには最も適當である、それにシンナム置薬劑として増量が能きるから染料よりも廉るスマツクの代用として貰はれ、またラゴードの代用品としても面白からう、スマツクは絹の増量品として

の産地は主として江原道、慶

脚下の臺はセ
に居て伊太利人
が追跡し奪ひ取りた
重傷を受けし爲め應

甲斐なく間もなく絶
刑事に
 幾回も

町飲食店若田長之助
て家人を脅しつゝ、依
午後八時頃又もや前
酒を命じたるが其の
怪しげなれば主人が
し控へとやかく押問
置中の悪逆來合せ鑑

ばならぬとは一般の
 環境汚染に
 対する誤

解である、それはよく素人の人で鳥
渡色の染まるやうな鑑物を見ること
が大變さするけれどもそれは多くは
一時粉末の汚染に過ぎない、眞當の
染料ではないのである、元來染料な
るものは人にせよ植物性にせよ充
分水に溶解することが大事である、
新井健士(と)許稱
にて斃命をなした八月
五番通五丁目原川市
狂中忍び込みて衣類
百圓を盗取しなが
らぬ風を襲ひ前記所
東署の刑事に逮捕さ

か
攪はる

公金入
 を揚置
 思北丹陽郡奴化而中
 區財務廳員李圭賢()
 に係る大正二年度より
 原稅八百四十餘圓を
 母に伴れりて通行中拉去され又著徳

近頃の熨斗は悉く之

◆**大漁場を発見し、目下盛況**
見は相當な意味のあるものであるが、近來泥常は従来内地有明海の特産物であつて、關門、佐賀の兩縣下に多産するが、磯崎でも何處かに棲息するだつたことが、今日までその痕跡を見出す事は出来なかつた。然るに不圖とした動機から最近縣出近海で其の來れ葉菜であるからなら

は又た頗る美味で三杯酢などに

奇妙な貝で中味は非常に小さいがサ
 イイ味。即ち呼吸水管は腹に大キ
 味の不快さを引き換へてサイイ
 は又た頗る美味で三杯酢などに
 ●最適の食料 である。それ
 からまた貝と云ふものは昔しは何
 れも鰯の肉を引き延ばして乾した

產品は未だ附近の市
 であるが其の便り
 だずであるから
 ●隨所の市場
 らうが同地の有志
 で一工夫を重ね支
 んだずるものもあ

も身體各部に
手當を加へし

●
統監府の取

せり
けけた
元總督府醫院の庶務課長た
歸東する大枝

中島藤市方に義深き記念すべきものであ
が最初に渡鮮したのは明治

中島藤子方に
をなした十七日
の中島方にて
動の何となく
を出す事を差
せざる折にも
に致致し目
命されはじめて

義深き記念すべきものであ
が、最初に渡鮮したのは明治
一月統監府設置の開閣慶賀
であつた、それから九月に
入つて奉天の副領事とし
て、假かに統監府副理
康津の理事

町生の柴野
宮野村香具師
氏と交替して
城津に赴き
四
同地にゐた
後併合の際

旅順半環壕（即刷）局長として名実あり
十一日安東縣
郡方家人の不
品數點（約二
本月四日素知
方を訪問申安
徹夜取調へて
に總府醫院に入り今日ま
半の日子を送つた、氏は山
船に在る數の知己は何
去るを惜むるゝ、因に氏
前八時半、南大門出發、船
て東上する由

十九日正午盛んなる見送り
京驛を發し午後五時蒲田駅

日餘圓
として逃亡
は自己脱び
屋住丹陽郡
六年度に至
揚帝し先郷
城に爆發したる三國セルム
爆發したセルム
責任者却

被告 人 罪

此の近俗
 なる様になつて
 多座
 必要すら
 さすことが出
 大瀧堤の發
 此の近俗
 なる様になつて
 多座
 必要すら
 さすことが出

平北の熊狩り
 東新面梅垣里金元尙は憲
 可得特別狩獵中八月
 熊一頭を射殺し同日江界
 し自動車にて被告人の護
 畫あり(大阪特電)

からす
 に現はれるだ
 頭を射止めたり
 老婆の薬死
 十

上る位の處
 域は非常に廣汎
 からは
 に現はれるだ
 には之を採掘し
 へ輸出を計畫せ
 そうである

老
 婆
 の
 轢
 死

十
 三番地なる鐵
 山、江沼十三番地なる鐵
 山、江沼十三番地なる鐵

小水洞梓別荘鐵車申銀九
 穴にて二頭の熊を發見し
 頭を射止めたり

五日現在の調査に據れば我國の

係官出張取調しに死者は町居住鐵道踏切番人難不縣飽鄉村村上巳之助の母幸(九)とたるが老衰の餘り自宅附近を十九日午前四時五十分南大門貨物列車に觸れて即死したる

十三日の日曜及び二十四日の二
期し濱町園藝研究所に於て秋

●パコダの奏樂廿日
公園に於ける奏樂曲目左の如
く
▲奏南無觀世音菩薩 ▲ムシナンマヤ
を明證すべし會費金一圓にし
賞純金メタル二等上座臨時
高麗燒花瓶以下十等送貨品あ
勝手たるべしと

合同の喜劇園にて

なるが同一行は當地に於て未だその
 半ならず、而して其の連綿を斷ずる。山にて京
 邑色より、處所を尋ねずして、野外無算なる
 時、色と相侵つて、外野を爲す。又、食を
 時、時とを以て、外野の邊は、早
 二時、三時、四時、五時、六時よりなりと
 有樂館 二十日より、臨時特別晩
 會、招待の客、ある。その主なる

大正會
ドサータルの五六編は上に佳境の條に
ある面白く其間七冊中三は例の松之助

▲内地には近頃
成金が横行す
ふが内地ばかり

支那人の煉瓦積職工は一個二

積んで居るが薪切りの上職人
と一日三圓位の収入になる▲
やうに身装を飾る必要のない
十五日目に受取る三十五圓五
圓の金を使ひ途に困る▲また
便所紙の代りに使ふ程に

曲の素より三四下曲
 尠くないさうである▲殊に
 正に來ては一日三圖も取て

此の春から三四百圓も貯蓄
せくないさうである ▲殊に
工と來ては一日三圓も取て
錢足らずの暮しをして小使
一丈も便はない者が多いさ

<p>株式第一銀行支店</p> <p>資本金 二、三、七〇〇、〇〇〇圓 積立金 一、八、〇〇〇、〇〇〇圓 諸預金 一、八、〇〇〇、〇〇〇圓</p> <p>會社 第一銀行支店 支配人 西村道彦</p> <p>京城府本町二丁目(振替貯金京城一二番)</p>	<p>自働車 開業廣告</p> <p>謹啓今回市内貸付自働車部を鍾路通一丁目七十三番地に新設致し親切可憐を旨とし御用命に應ず可く候に付自働車愛乗家各位に謹告仕候</p> <p>京城鍾路二丁目七十三番地 鍾路自働車部 主 金 錫 首 電話三〇五三</p>	 <p>Overland 775</p>	<p>火災にポンプ</p> <p>京城本町二丁目 全鮮消防組御用 熊平支店</p> <p>(電話四六二四番) 振替京城一二番</p>	<p>債券利殖秘傳</p> <p>勤儉堂主人述 投資の問題なる驚異の富策の発見</p> <p>未だ知らざる人々速に讀め我利便の最良品なりを認めて約希望の郵券に推獎す購買又は各書を一冊以上取次</p> <p>年々甘割面勸業貯蓄債券活斷典</p>	<p>六十回新債券輕便賣出し</p> <p>只の六十回の新債券を買へて割増金二千圓千圓五百圓のくじを楽しむ法實録有願切代金送附あれば即時領收送る。販賣案内書郵券二錢御送附内申込あれば名古屋市中區新町四丁目八番地勸業銀行 勸業債券販賣所 (振替三三三三番) 電話三三三三番</p> <p>風車五反稻麥扱機</p> <p>製外特許多田式 製造機あり</p> <p>●稻其他の穀類を美事に脱穀す多數の回転式稻扱中の最良品なるを認め我利便の郵券に推獎す購買又は特約店希望の郵券に推獎す購買又は獨立農工株式會社石原商會 朝野總代理店石原商會 新龍山主 石原磯次郎 電話龍山七二六番</p>	<p>諸病に苦しむ人は試みよ</p> <p>滿洲金海を経て幾多の患者を治療し三十餘年間を経験ある灸術師曾我クニ子木より向う三週間當地に於て施灸す</p> <p>京城南大門浦五丁目一三岐屋旅館 灸術師曾我クニ子 電話一五一七番</p>	<p>新京極の火事騒</p> <p>京都府 新京極の火事騒 梅入千代館より十九日午後零時分損失火したるも天井を焼きた均三千萬圓ナリ</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

櫻御殿

大 阪 震 の 家 主 人

第廿一回

「まづお聞きなされ」と忠勝は血を
「まづお聞きなされ」と忠勝は血を
「まづお聞きなされ」と忠勝は血を



「まづお聞きなされ」と忠勝は血を
「まづお聞きなされ」と忠勝は血を
「まづお聞きなされ」と忠勝は血を

日報新聞

立 秋

秋立の涼風はなほ思ひ残る
秋立の涼風はなほ思ひ残る
秋立の涼風はなほ思ひ残る

新刊紹介

食の養生(九)

食の養生(九)
食の養生(九)
食の養生(九)

龍 油
京都出所張五番

最新刊
松永分所

京日案内
松永分所

龍 油
京都出所張五番

最新刊
松永分所

京日案内
松永分所

寺田寶丹
初秋の健康は

新刊
松永分所

七日月
松永分所

各種船期表
松永分所